

自然観察ウォーキング

参加者募集

自然観察保安林「山門水源の森」観察会

自然のなかでリフレッシュ! 平成 29 年 10 月 21 日(土) 湖西線永原駅 8:50 集合
シリーズ NO: 13



この森は滋賀県北部の長浜市西浅井町にあり、かつては山門、中、庄の三集落の共有林で、炭や薪をつくるために利用されていた広さ約 63.5 ha の里山です。ここで生産された炭は京阪神に出荷され、この地域の皆さんの生活を支えてきました。その当時はよく手入れされた森でした。その後、炭の需要もなくなって森は放置されてきました。

この森はかつてゴルフ場になる予定でしたが、県によって買収され保全されることになりました。現在は、「山門水源の森を次の世代に引き継ぐ会」を中心に保全や復元が図られています。この森に囲まれて、広さ約 5.6 ha の県内最大級の山門湿原があります。

この湿原はミズゴケを主とする高層湿原で約 3 万年の歴史をもち、泥炭層は約 6m に達しています。ミツガシワを初めとする多くの湿地性の植物や水生昆虫、モリアオガエルなどが生息し、生態系を一層豊かにしています、

とき

平成 29 年 10 月 21 日(土)9 時 ~ 15 時

募集人員・締切り

10 名・10 月 14 日(土)

集合場所・時間

湖西線永原駅・8 時 50 分(山科 7:31、大津京 7:37 永原行)

交通費

永原駅から現地までの交通はバス(8 人乗り)又はタクシーですが、参加者数によって調整します(現地集合者は別:9 時まで駐車場集合)

参加費

一人:500 円(入山費・資料代・保険代)小学生は無料

持ち物

弁当(集合場所付近にコンビニなし)・飲料水・帽子・タオル・
雨具(カッパが良い)・手袋・

服装

山道を歩きます、汚れてもかまわない服(長袖、長ズボン)
履物(トレッキングシューズなど)

歩行距離

約 4 ㎞(選択コースで山道を標高差 130~300m、登り降りします)

その他

小雨決行(前夜予報の降水確率が 70%以上は中止)帰路は永原駅 15:45 を予定

主催

滋賀大学「環境学習支援士」会



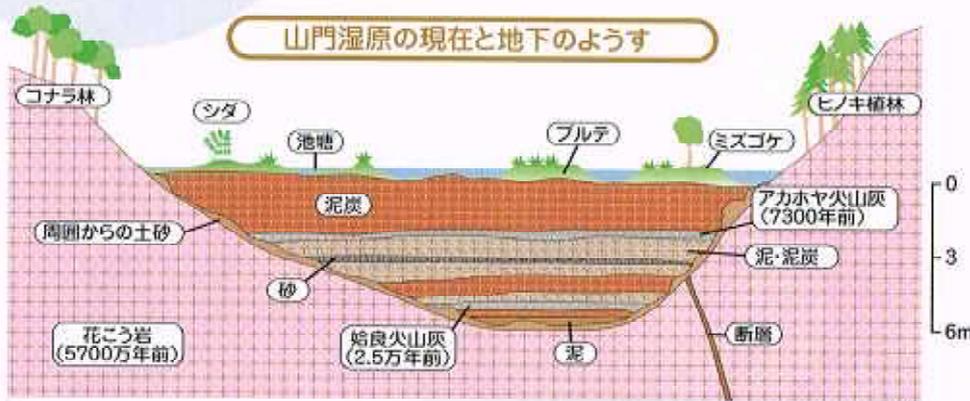
秋 四季の森

山門水源の森で一番大切なことは、山門湿原が「ミスゴケ湿原(高層湿原)」であることです。湿原ができるきっかけは、大浦断層の活動が深く関係しています。断層によってつくられた溝状の地形の一部に水がたまり、ミスゴケをはじめとする湿地植物が厚い泥炭層を堆積しながら現在のよう状態になりました。湿地の大部分は泥炭層からできています。寒さと酸性のために、ミスゴケは腐りきらずに泥炭層をつくり、ミスゴケ湿原をつくりあげました。これが、山門湿原に養分が少ない1つの理由です。

この泥炭層の中には、遠く九州から飛んできた始良火山灰(約2.5万年前)やアカホヤ火山灰(約7300年前)がふくまれています。

ところで、2.5万年前といえば、最後の氷河時代にあたります。山門湿原にはこの氷河時代の生き残りと考えられる多くの寒冷地動植物が息しています。

山門湿原は、長い間に草や木々に被われていく運命にあります。それを少しでも遅らせるには、周囲の花こう岩の山々から土砂が大量に流入しないように、山地を保全することが重要です。



山門水源の森の特徴
 滋賀県は、北は若狭湾を経て日本海に、南東は伊勢湾を経て太平洋に、南西は大阪湾を経て瀬戸内海に通じています。そしてこの森は、県内で最も北に位置しているため、特に冬には北陸型の気候となって寒気が流れ込み、多い時には積雪が2mを超えることもあります。その一方で夏には伊勢湾や瀬戸内海方面から湿潤な気流が入り、高温多湿となります。このような気候を反映して寒地性と暖地性の植物が多様な植物群落を形成しています。代表的な例として寒い気候を好むブナと暖かい気候を好むアカガシとが枝を差し交わしながら同居している姿が見られます、このような多様な植生は、多種の昆虫や動物たちの生命をも支えています、また、森に囲まれるようにして大きな湿原があります。(左図参照)

注意：湿原に入ったり、貴重な植物や生物を絶対に採集したり捕獲しないで下さい。

問合せ・申込先 滋賀大学「環境学習支援士」会 佐瀬 章男
 ・ Fax : 077-543-5926 E-mail: shienshikai@yahoo.co.jp
 参加申込書(切り取らずに、1頁をFAX下さい)

お名前(ふりがな)複数人の参加も記入下さい	ご所属
代表者連絡先住所(自宅・勤務先) 〒	
代表者連絡先	Fax E-mail

